

公益財団法人 北九州観光コンベンション協会

公益財団法人 北九州観光コンベンション協会

I 法人の概要（令和6年4月1日現在）

1 所在地

北九州市小倉北区浅野三丁目8番1号

2 設立年月日

昭和51年3月25日

3 代表者

理事長 津田 純嗣

4 基本財産

1,982,872千円（設立時の基本財産 2,416,798千円）

5 北九州市の出捐金

1,216,074千円（出捐の割合 61.3%）

6 役職員数

	人 数			
	合 計	うち本市からの派遣	うち本市退職者	うちその他
役 員	11人	0人	1人	10人
常 勤	1人	0人	1人	0人
非常勤	10人	0人	0人	10人
職 員	61人	6人	0人	55人

7 市からのミッション

内外の工業製品等の展示紹介を通じて西日本地域の産業の高度化と貿易の振興、北九州市における観光事業の健全な振興に資するとともに、コンベンションの誘致、支援等を通じて地域の活性化及び文化の向上に資することにより、本市の経済政策を支援し、にぎわいと活力あふれるまちづくりに貢献する。

II 令和5年度事業実績

【概況】

MICE分野では、毎年恒例の自主事業の実施やコンベンションなどの誘致・開催、貸館営業のほか、夏季のにぎわいイベントの実施などに積極的に取り組んできた。令和5年度は、感染の再拡大が懸念される状況もある中、社会経済活動をできる限り維持するという政府の方針に沿った形で、会議・大会等は延べ249件開催され、また施設来場者数も、直近の3年間で大きく上回る105万人を集めた。

観光分野では、観光客誘致・滞在化促進のため、国内外へのセールスの実施や、情報発信、観光に関する施設の管理・運営に取り組んだ。売店事業ではインバウンドや団体観光客等の回復により収益が改善し、TOTOミュージアムショップにおいては過去最高の収益となった。また前

年度リニューアルした小倉駅JAMビジョンも、市内イベント等のPR利用を中心に需要を開拓し、こちらも過去最高の収益を記録した。

経営面においては、コロナ禍の影響が残る状況下にあつて、協会全体が一丸となり事業に取り組んだ結果、黒字を確保することができた。今後も、新たな事業展開に向けた準備や、コスト管理を徹底し、自立した経営を維持・強化しなければならない。

見本市・展示会事業

1 主催展示会の開催

(1) 概要

◆当協会主催の展示会・見本市事業

事業名	開催期日	入場者数（人）		出展社数（件）		
			(R4実績)		(R4実績)	
課題解決EXPO2023	7/5-7	18,183	13,749	41	36	
				西日本 DX 推進フェア 2023	51	38
				エコテクノ 2023 ～地球環境ソリューション展/エネルギー先端技術展～	72	56
				ベンチャー・メッセ 2023	20	23
				中小企業テクノフェア in 九州 2023	53	65
				第49回ふくおか産業技術振興展	27	26
第45回西日本陶磁器フェスタ	9/14-19	45,165	20,579	228	228	
合計		63,348	34,328	492	472	

ア 複合化する地域企業の課題解決に対応する「課題解決EXPO」の開催継続

製造業・DX推進・環境産業・中小企業という北九州ならではのテーマを掲げた展示会を取りまとめ、地域企業の課題を解決に導く「課題解決EXPO」を引き続き開催した。地域の多様な課題に対応すべく有望産業への取組みや生産性向上、デジタルトランスフォーメーション（DX）の導入、脱炭素への取組み、事業承継など、様々なテーマを展示とセミナーを通じて一堂に紹介した。また、今回新たな取組みとして、WEBによる出展申し込みを導入した。

イ 西日本陶磁器フェスタの魅力向上と安心・安全への取組み

全国でも最も伝統ある陶磁器展示会の一つである当フェスタは、芸術（西日本陶芸作家展）・文化（生け花&茶道X器）の視点での様々な企画を展開し、伝統工芸を担う窯元等への市場の提供や地域経済の活性化を目的に開催した。令和5年度も引き続き、SNSを活用したPRや集客を行った。具体的には、ホームページでの出展窯元の紹介や作品PRの拡充・強化により、各窯元の販売支援を行った。台風リスクに備え5日間の会期を6日間に延長して開催、購買意欲の高い層へのアプローチと集客の強化を図り、出展窯元の満足度向上に努めた。

ウ その他事業

◆当協会主催のその他事業

事業名	開催期日	入場者数
泡盛ナイト in くら	R5 年 8 月 1 日	191 人 (100 人)
第 28 回北九州将棋フェスティバル	R5 年 10 月 21 日～22 日	691 人 (503 人)
第 23 回全国俳句大会 in 北九州	R6 年 3 月 2 日～3 日	1,198 人 (1,469 人)

※ () 内は令和 4 年度実績

(2) 国際ビジネスの推進

海外との往來の規制が解除され、北部九州とアジア地域の展示会を活用した新たな交流の場づくりにつなげるべく下記のとおり取り組んだ。

ア アジアの関係団体等への出展誘致の推進

課題解決 EXPO 内に海外経済団体、貿易促進団体の国内事務所の出展を得て来場者に情報を提供、海外取引・投資を促進した。

イ 韓国釜山広域市国際展示場 BEXCO (Busan Exhibition & Convention center) との連携

BEXCO との連携事業を再開、BEXCO が 7 月の課題解決 EXPO に、当協会が 9 月の釜山開催の ENTECH に、それぞれ自主事業の PR を目的に相互出展を行った。

また仁川 Convensia 松島より MOU の問い合わせがあり、9 月に訪問、それぞれの概要等の情報交換を行った。

会議・大会等

2 MICE 誘致

(1) 概要

前年度に引き続き、キーパーソン・学協会等への営業活動、各種商談会への参加を積極的に行ったほか、JNTO とも連携し情報発信の強化を図った。令和 5 年度は、新型コロナウイルス感染症法位置づけ「5 類感染症」への移行に伴い、営業活動や商談会も対面及び現地開催が増え、キーパーソンと直接面談することにより効果的な営業活動を行うことができた。

また、誘致の都市間競争も激しさの兆しを見せており、会議情報の早期入手と主催者ニーズの的確な把握を行い、誘致活動を行った。

◆MICE 開催件数・参加人数の推移

(単位：件)

区分	国際		全国		その他		合計	
	開催件数	参加人数	開催件数	参加人数	開催件数	参加人数	開催件数	参加人数
R5 年度	45	7,847	101	26,967	103	25,923	249	60,737
R4 年度	20	2,659	89	19,974	87	20,361	196	42,994

(2) ステークホルダーとの連携

ア 北九州市グローバルMICE推進協議会との連携

令和5年度は、「VISIT JAPAN トラベル&MICEマート2023」及び「国際MICEエキスポ(IME)」に協議会と共同出展した。また、毎年、北九州観光コンベンション協会と下関観光コンベンション協会が主催する「北九州MICE倶楽部首都圏交流会」に参加し、首都圏在住の国際会議等のキーパーソンとの交流を行っている。

イ 日本政府観光局(JNTO)

令和5年度もJNTO主催の各種商談会などに参加した。また、JNTO主催の「2023年度国際会議キーパーソン招聘事業」において、海外のMICEキーパーソンであるコアPCO3名が、九州コースの視察先の一つとして北九州市を訪問し、MICE施設やユニークベニューを視察し、好評であった。

【2023年度国際会議キーパーソン招聘事業】

JNTOが主催し、MICE関連の訪日需要を喚起するため、海外のMICEキーパーソンを日本へ招聘し、視察する事業。

・開催日 令和5年12月6日

・視察先 MICE関連施設(北九州国際会議場、西日本総合展示場新館、リーガロイヤルホテル小倉)

ユニークベニュー(小倉城、小倉城庭園、旧松本邸、観山荘別館)

・来訪者 コアPCO3名(スペイン、イタリア、シンガポール)

◆令和5年度 MICE開催による経済波及効果

区分	件数	参加人数	経済波及効果
会議・大会等	249件	61,846名	10,165百万円
見本市・展示会	14件	138,064名	17,480百万円
合計	263件	199,910名	27,645百万円

※開催実績の対象は、以下の2つの条件を満たすもの。ただし、展示即売など主に営業目的とするものは除く。

①北九州市MICE誘致推進本部事務局(北九州市産業経済局及び当協会)が誘致・開催支援・実施したもの。

②北九州市地域以上を参加規模とするもの。

※経済波及効果は、観光庁の「MICE開催による経済波及効果測定モデル」により算定。

貸館利用者の誘致・営業強化

3 貸館利用者への営業実績

(1) 営業体制の強化

従来型の見本市・BtoBイベントをターゲットにした新規案件の開拓や全国を巡回する大型イベント主催者への営業を強化した結果、令和5年度は50件の新規営業案件を誘致した。

また、「JU福岡中古車ビッグフェア2023」、「JAあぐりフェスタ」など、コロナ禍で中止となっていた催事が2019年以来4年ぶりに再開。継続営業の成果として、令和5年度は12件の復活営業案件を誘致した。

(2) 「営業推進本部」の機能強化

施設の管理・運営及び営業によって施設の設置目的に沿った効果を最大限に発揮するとともに、指定管理者としてにぎわいづくりを戦略的に実施するため、「営業推進本部」として営業課とサービス課がワンチームとなり、更なる機能強化を図った。

具体的な内容としては、毎月1回「営業推進本部会議」を開き、主に施設の稼働状況や改修状況、顧客の動向について情報共有を図り、会場の利用促進・サービス向上に努めた。

◆貸館営業の成果件数実績

年度	R3年度	R4年度	R5年度
成果件数	154件	219件	288件

4 地域連携

JR小倉駅新幹線口の各団体と交流イベントや地域清掃活動等を実施した。また、小倉駅へのアクセスの良さを生かし、イベント等のPRをJR九州・JR西日本と連携して行うなど、地域の活性化に取り組んだ。さらに、小倉且過及び魚町で発生した火災復興のため、クラウドファンディングへの協賛や義援金支援を行った。

5 広報、宣伝

(1) 機関誌・観光関連書籍の発行

北九州観光イベントだより（40,000部）、北九州観光カレンダー（6,500部）

(2) ホームページ等の運営

◆令和5年度 市内観光情報の発信実績

発信元	対象	件数	(R4実績)
ぐるリッチ！北Q州	アクセス数	1,465,996件	1,501,100件
Facebook	いいね！件数	12,842件	12,517件
Instagram	フォロワー数	20,108件	17,442件
X(旧Twitter)	フォロワー数	21,097件	7,618件

管理・運営

6 MICE施設の管理・運営

(1) 職員の資質・能力の向上

ハラスメント研修、メンタルヘルス研修、AED講習会に加え、MICE施設関連組織が主催する各種実務研修に積極的に参加し、職員の資質・能力の向上に努めた。

(2) 管理経費の縮減

光熱費及び資材・部材費の高騰を踏まえ、電力需要の監視や空調動力の時差運転等による消費電力の削減、無駄な照明利用を控える等、細やかな点検と確認を行った。また、地下駐車場や国際会議場内の一部で照明のLED化を行い、消費電力の削減を図った。

(3) 施設の改修等

施設の老朽化対策及び利便性・安全性の向上のため、外壁廻り、電気設備、空調設備、雨漏り対応、水回り、音響機器など、必要な設備改修を行った。

(4) 各施設の稼働率及び入場者数

◆令和5年度 利用実績

施設	件数	(件)	稼働日数	(日)	稼働率	(%)	入場者数	(万人)
		(R4実績)		(R4実績)		(R4実績)		(R4実績)
西日本総合展示場本館	68	55	322	237	62.7	68.7	32	32
西日本総合展示場新館	179	160	288	277	81.4	78.0	65	34
北九州国際会議場	576	595	328	334	95.4	94.4	8	5

7 指定管理

指定管理期間の5年目である令和5年度は、指定管理計画に掲げた目標のうち、コンベンション誘致件数と会議場稼働率は目標を達成した。

◆令和5年度 指定管理実績

区分	目標値	実績値
来場者数	96万人	105万人
コンベンション誘致件数	250件	259件
施設稼働率	本館：70.0%	本館：62.7%
	新館：80.0%	新館：81.4%
	会議場：90.0%	会議場：95.4%

観光客の誘致及び滞在化の促進

8 観光客誘致及び滞在化促進

(1) 各種助成事業及び産業観光資源を生かした事業展開

修学旅行や北九州以内への宿泊・立寄旅行商品への助成、日本新三大夜景都市ブランドを活用した夜型観光の促進、市内宿泊・観光施設のDX化促進など、各種事業を実施した。

(2) インバウンド助成事業

北九州市内での宿泊・観光を組み込んだインバウンドツアー等に対する助成を行った。

・インバウンド誘致助成金利用実績：韓国322名、その他3,023名

・ウェルカム北九州キャンペーン誘致助成金利用実績：6,470名 内宿泊者3,148名

観光に関する人材の育成及び啓発

9 観光人材の育成

(1) 観光案内ボランティア

旅行会社等からの依頼による門司港レトロ地区等でのガイド活動や、イベント、祭りに合わ

せて設置した特設観光案内所でのガイド活動を実施した。

・令和5年度ガイド件数・人数：960件、14,940名

(2) 北九州観光市民大学

本市の観光や歴史、文化等の学びを目的に、北九州観光市民大学を開講した。令和5年度は43名の参加があり、そのうち、13名が新たに観光案内ボランティアに登録した。

特産品の紹介・宣伝

10 特産品の紹介・宣伝

オンラインショップや臨時売店、特産品パンフレット等を通じて本市特産品の販売・PRを行った。また、「北九州土産セット」や「北九州ギフトセット」等を開発し販売した。

観光に関する施設の管理運営

11 観光施設の管理・運営

(1) 観光案内所

装飾等による案内所の観光スポット化やSNS発信を行い、北九州市の「ファン・リピーター」を増やす取組みを行った。また、インバウンドの回復に伴い、外国人旅行者とのコミュニケーションを通じて求められる情報やサービスを提供することで、北九州市と外国人旅行者とのコンタクトポイントとしての役割を担った。

(2) 土産品・特産品売店

門司港レトロ地区における主力の観光物産店である「北九州おみやげ館」や、小倉北区の「TOTOMミュージアムショップ」を管理運営し土産品の紹介・販売を行った。また、北九州商工会議所が地域消費喚起策として発行した「Paycha」、北九州市国際観光推進協議会がインバウンド向けに発行した「ウェルカム北九州！」クーポンの取扱店舗となり、地域施策等と連携した店舗PR・販促に努めた。

(3) JR小倉駅JAM広場、JAMビジョン

JR小倉駅3階在来線改札口前のJAM広場において、本市関連の催事をはじめ、北九州圏域の観光物産展やにぎわいづくりのイベント誘致に取り組んだ。また、同広場の大型映像装置「JAMビジョン」において、市政情報や観光情報、広告に関するCM等を放映した。

Ⅲ 令和5年度決算

1 貸借対照表(総括表)

令和6年3月31日現在(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	1,076,237,402	830,304,408	245,932,994
売掛金	10,963,428	11,217,618	▲ 254,190
未収金	48,814,172	49,599,692	▲ 785,520
棚卸資産	6,084,088	3,975,634	2,108,454
貯蔵品	448,880	555,913	▲ 107,033
前払金	820,818	815,954	4,864
立替金	241,252	0	241,252
仮払金	6,864,364	21,142,829	▲ 14,278,465
流動資産合計	1,150,474,404	917,612,048	232,862,356
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
建物	232,962,848	269,425,048	▲ 36,462,200
建物付属設備	1	1	0
構築物	4	4	0
機械及び装置	11,310,599	13,062,111	▲ 1,751,512
基本財産引当資産	761,421,301	761,421,301	0
減価償却引当資産	977,177,339	976,763,595	413,744
基本財産合計	1,982,872,092	2,020,672,060	▲ 37,799,968
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	175,896,790	184,758,193	▲ 8,861,403
減価償却引当資産	3,368,822	5,964,822	▲ 2,596,000
目的事業引当資産	625,112,525	625,112,525	0
事業開催引当資産	7,650,000	7,650,000	0
施設耐震等改修工事引当資産	192,000,000	192,000,000	0
施設耐震等修繕費用準備資金積立資産	75,000,000	75,000,000	0
特定資産合計	1,079,028,137	1,090,485,540	▲ 11,457,403
(3) その他固定資産			
建物	2,973,599	3,191,770	▲ 218,171
建物付属設備	245,419	313,212	▲ 67,793
構築物	1,213,715	1,553,787	▲ 340,072
車両運搬具	277,045	579,271	▲ 302,226
什器備品	2,560,084	3,831,908	▲ 1,271,824
機械及び装置	3,200,034	987,145	2,212,889
ソフトウェア	20,932,997	31,978,929	▲ 11,045,932
リース資産	43,483,818	52,480,470	▲ 8,996,652
繰延税金資産(長期)	8,500,000	6,448,000	2,052,000
その他固定資産合計	83,386,711	101,364,492	▲ 17,977,781
固定資産合計	3,145,286,940	3,212,522,092	▲ 67,235,152
資産合計	4,295,761,344	4,130,134,140	165,627,204

Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債			
買掛金	7,173,207	4,610,504	2,562,703
未払金	150,221,617	91,094,167	59,127,450
前受金	45,583,176	64,434,021	▲ 18,850,845
預り金	40,392,313	27,127,884	13,264,429
仮受金	2,118,470	242,281	1,876,189
未払法人税等	44,838,600	24,462,300	20,376,300
賞与引当金	14,922,048	13,380,768	1,541,280
流動負債合計	305,249,431	225,351,925	79,897,506
2. 固定負債			
退職給付引当金	175,896,790	184,758,193	▲ 8,861,403
リース債務	43,483,818	52,480,470	▲ 8,996,652
預り敷金	600,000	600,000	0
固定負債合計	219,980,608	237,838,663	▲ 17,858,055
負債合計	525,230,039	463,190,588	62,039,451
Ⅲ 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	756,000,000	756,000,000	0
展示場設備受贈益	231,931,410	255,171,540	▲ 23,240,130
基本財産運用益	5,421,301	5,421,301	0
指定正味財産合計	993,352,711	1,016,592,841	▲ 23,240,130
(うち基本財産への充当額)	(993,352,711)	(1,016,592,841)	(▲ 23,240,130)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	2,777,178,594	2,650,350,711	126,827,883
(うち特定資産への充当額)	(989,519,381)	(1,004,079,219)	(▲ 14,559,838)
(うち特定資産への充当額)	(903,131,347)	(905,727,347)	(▲ 2,596,000)
正味財産合計	3,770,531,305	3,666,943,552	103,587,753
負債及び正味財産合計	4,295,761,344	4,130,134,140	165,627,204

2 正味財産増減計算書（総括表）

自 令和5年4月1日
至 令和6年3月31日（単位：円）

	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	5,159,134	6,967,581	▲ 1,808,447
展示場設備受贈益	23,240,130	23,240,130	0
特定資産運用益	2,199,000	2,096,057	102,943
受取会費	7,782,500	8,057,500	▲ 275,000
事業収益	964,052,589	726,763,165	237,289,424
受取補助金等	296,359,647	297,578,350	▲ 1,218,703
受取負担金	77,419,073	57,189,194	20,229,879
雑収益	17,458,679	11,085,365	6,373,314
経常収益計	1,393,670,752	1,132,977,342	260,693,410
(2) 経常費用			
事業費	1,212,104,101	1,071,653,478	140,450,623
管理費	11,707,692	11,906,688	▲ 198,996
経常費用計	1,223,811,793	1,083,560,166	140,251,627
当期経常増減額	169,858,959	49,417,176	120,441,783
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	175,176	1	175,175
当期経常外増減額	▲ 175,176	▲ 1	▲ 175,175
他会計振替額	0	0	0
法人税、住民税及び事業税	44,907,900	24,462,300	20,445,600
法人税等調整額	▲ 2,052,000	▲ 549,000	▲ 1,503,000
当期一般正味財産増減額	126,827,883	25,503,875	101,324,008
一般正味財産期首残高	2,650,350,711	2,624,846,836	25,503,875
一般正味財産期末残高	2,777,178,594	2,650,350,711	126,827,883
II 指定正味財産増減の部			
基本財産運用益	3,883,708	4,117,992	▲ 234,284
一般正味財産への振替額	27,123,838	27,278,111	▲ 154,273
当期指定正味財産増減額	▲ 23,240,130	▲ 23,160,119	▲ 80,011
指定正味財産期首残高	1,016,592,841	1,039,752,960	▲ 23,160,119
指定正味財産期末残高	993,352,711	1,016,592,841	▲ 23,240,130
III 正味財産期末残高	3,770,531,305	3,666,943,552	103,587,753

IV 令和6年度事業計画

1 総論

【協会の活動】

当協会では、MICEと観光の両事業を併せ持ち、「小倉駅新幹線口コンベンションゾーン」のMICE3施設の一体的・有機的な管理運営を行うとともに、MICE事業と観光事業との連携による効果的な情報発信機能を有しており、大きな強みとなっている。この強みを生かし、当協会のミッションである「国内外からの観光客の誘致・滞在化を促進する観光事業の推進」、「日本屈指のMICE開催拠点＝小倉駅新幹線口国際コンベンションゾーンの一体的運営とグローバル志向のMICEの誘致・支援」に取り組み、「都市ブランド力の向上、新たな魅力創造及びシビックプライドの醸成に貢献し、国内外から選ばれるまちを目指す」ことをビジョンとして掲げる。

当協会ではこのミッションを果たすため、次の活動方針に基づき、各種事業を展開していく。

(1) 主催展示会事業の強化

- ・自主事業での先端技術情報の発信、製造技術を中心とした商談会による開催販路拡大支援の強化、「DX」「物流」「子ども・子育て」等を成長分野と捉えた新規展示会の開発、など

(2) MICE誘致の強化

- ・学会のキーパーソンへのフェイス・トゥ・フェイス・マーケティングの強化、商談会等での北九州の魅力の発信、誘致開催助成金の活用、広域ネットワークによる連携、など

(3) 貸館利用者の誘致・営業の強化

- ・ターゲットを絞ったりピーターの利用再開や、長期休暇期間を狙ったエンターテインメントイベントの新規利用者開拓、など

(4) 利便性と顧客満足度の高い施設サービスの提供

- ・利用者・来場者に満足してもらうための、きめ細かいサービスの提供や、快適な施設の運営、イベント会場でのおみやげ物販コーナー設置や観光情報の提供、など

(5) 情報発信・受入態勢の質を高め、観光客誘致を促進

- ・国内旅行客の誘客、インバウンド誘致の強化、地域資源を活用した情報発信力の向上、など

(6) 観光資源、地域団体と連携したまちぐるみのおもてなし気運の醸成

- ・観光事業・MICE事業協働による観光資源の活用、まちの魅力向上、など

(7) 業務改善、チームワーク、個人の創造性を育む組織体制の構築

- ・管理運営上の問題解決、職員能力向上のための教育研修の実施、など

(8) 持続可能な施設運営に向けた環境経営

- ・創意工夫による収入確保と経費節減につながるコスト管理、コンプライアンス遵守、リスクマネジメント、など

【指定管理計画の目標実現に向けて】

令和6年度は、西日本総合展示場新館、北九州国際会議場の指定管理期間の最終年となる。指定管理施設の活用と、周辺施設や関係団体との連携を最大限に進め、指定管理計画に掲げる目標（来場者数（展示場新館・本館、国際会議場）96万人、コンベンション誘致件数250件など）の達成に向け最大限努力する。

2 各論

主催展示会事業の強化

(1) 主催事業の展開

主催事業のうち、「課題解決EXPO」は半導体、EV、航空宇宙産業やDX・GXなどの注目産業や脱炭素など地域企業の課題を中心に引き上げ、出展社、来場者の充実を図る。また、「西日本陶磁器フェスタ」においては、全国の窯元を紹介するとともに、食も含めた企画の充実などにより新たな来場者誘致に取り組む。

このほか、地元経済の課題やニーズ、行政の施策などを中心とした新たなテーマの検討、展示会主催者との情報交換などによる新規展示会の企画を進め、さらに、展示会運営方法の見直し、外部委託の活用、展示会開催業務の標準化など、業務の効率化に努める。

(2) 展示会開発に向けた開催業務の効率化と人材育成の促進

企業や行政機関、研究機関と連携した新規事業の研究・開発への取り組み、展示会共同開催の可能性を探る。また、展示会運営業務の標準化及び外部委託化を進め、国際標準規格や開催手法等を学ぶためのプログラムへの参加を通じ、展示会業務に精通した人材の育成を図る。

《令和6年度開催の事業》

事業名		開催期日	入場目標	出展目標
課題解決EXPO2024	西日本製造技術イノベーション2024	7月3日～5日	20,000人	60社
	西日本DX推進フェア2024			60社
	第49回ふくおか産業技術振興展 (中小企業テクノフェアin九州2024内)			30社
	エコテクノ2024			100社
	ベンチャー・メッセ2024			30社
	中小企業テクノフェアin九州 2024			60社
第46回西日本陶磁器フェスタ		9月19日～24日	45,000人	220社
合計		7事業	65,000人	560社

MICE誘致の強化

(1) グローバルレベルでのフェイス・トゥ・フェイス・マーケティング

誘致営業の効果を最大化するため、キーパーソンや学協会、PCO等に対してフェイス・トゥ・フェイスによるマーケティングを行う。また、「北九州市MICE倶楽部首都圏交流会」を開催し、首都圏のキーパーソンや学会協会関係者とのネットワーク拡大を図る。その他、ICCA（国際会議協会）との連携を継続し、グローバルレベルでの情報収集を行うとともに、JNTO（日本政府観光局）や海外見本市・商談会で築いたネットワークを活かしながら、開催提案書による誘致や、海外キーパーソン、有力PCOへの訪問営業を積極的に進め、国際会議誘致件数の増加を図る。スポーツイベントについても、市内スポーツ団体・体育施設と連携し、大会やその前後に行われる選手・指導者育成会・研修会の関連会議や講演会等の誘致を強化する。

(2) ステークホルダーとの連携

協定を締結する市内 4 大学（九工大、九歯大、北九大、産医大）と連携し、ローカルホストによる会議開催件数の増加を図るとともに、「北九州市グローバル M I C E 推進協議会」（ホテル、旅行・交通会社、行政等で組織）を通じた「チーム北九州」としての誘致セールス等に取り組む。

(3) 情報発信の強化・P R ツールの作成・情報集計のデジタル化

S N S を通じ、日本語・英語で会議開催支援情報を発信する。また、北九州市の S D G s 施策を P R するため、ノベルティを製作・配布し誘致の足掛かりとする。さらに、市内イベント情報の集計作業をデジタル化し、作業効率を向上させる。

(4) M I C E 開催支援制度（助成金・ユニークメニューの提案等）の継続

北九州市 M I C E 開催助成金を効果的に活用し、誘致件数の増加を図りつつ、助成金支援を利用できないインセンティブ旅行関係者に対しては、アトラクション等を代替提供することで、インセンティブ旅行の誘致促進に取り組む。また、アフターコンベンション・メニューとして近代産業遺産やその他観光資源を積極的に紹介し、参加者の満足度を高めるとともに北九州市のイメージ向上を図る。その他、下関地区と連携した関門地域全体でのエクスカッションコースの提供、小倉城やミクニワールドスタジアム等での新たな演出を交えたユニークメニューの開発に取り組む。

貸館利用者の誘致・営業の強化

(1) 既存利用者（リピーター）の利用再開と新規利用者の開拓に向けた営業活動の強化

既存利用者の利用再開、潜在顧客の掘り起こし等を目的とした積極的な営業を推進するとともに、広報をはじめとする開催支援のさらなる充実を図り、稼働率とサービスの向上に取り組む。

(2) 稼働率向上へ向けた取り組み

ゴールデンウィークやお盆、年末年始等の長期休暇期間に、ファミリー向けイベントなど集客力のあるイベントを積極的に誘致し稼働率の向上と来場者数の増加に努める。

(3) エンターテインメント分野、国際スポーツ大会、集客にぎわいイベント等の誘致・開催

全国規模で開催されるゲームコンテンツやアーティスト及びアイドルや声優関連のコンサート等の趣味性の高いエンターテインメント分野のイベント、市と連携して誘致する国際スポーツ大会、閑散期対策としての集客にぎわいイベントの開催に取り組む。

広報・宣伝、地域連携

(1) 広報・宣伝

協会ホームページにおいて、施設の紹介をはじめ、協会主催事業及び展示場、会議場の催事案内などの最新情報を提供するとともに、J R 小倉駅 J A M ビジョンや、ペDESTリアンデッキ設置のデジタルサイネージ等を積極的に活用し、施設や催事に関する情報を発信することで、視覚的に訴求力の高い広告効果を創出し、顧客の認知度を高める。

(2) 地域連携（小倉駅新幹線口地区振興連絡会などとの連携）

小倉駅周辺の魅力アップとにぎわいづくりのため、小倉駅新幹線口地区振興連絡会と連携して近隣の関係団体参加型の清掃活動や同会との意見交換会等を実施する。また、魚町商店街に当協会主催事業や誘致した学会・大会等の大型懸垂幕を掲出し、参加者による小倉駅南北間の往来を活性化させる。

お客様満足度の向上

(1) 快適なコミュニケーションの場の提供

イベント会場における土産品販売及び観光案内エリアの設置等を通じ、利用者同士が交流できる場を提供する。また、懇親会やコーヒープレイク会場を提案する際に当協会賛助会員企業・団体を紹介することで、主催者の業者選定の負担軽減を図る。

(2) 災害による被害の甚大化に対応する防災体制の構築

常時、施設維持管理に細心の注意を払い、不測の事態が発生した際には、職員が速やかに利用者の安全を確保できるよう、適切な防災体制を構築する。

(3) 施設・設備の改修等

会場カメラ・モニター、電光掲示板、場内美術・照明ボタン等の更新（展示場新館）や、LED等の高効率設備の導入や機器の更新による省エネ化及び建物の壁面改修等の美観回復工事（国際会議場）について、市との協議や要望を行いつつ改修に取り組む。

(4) 展示場本館の対応等

雨漏り防止の抜本的な対策や耐震対策など、大規模改修工事に向けた工事実施計画の策定を進める。

観光客の誘致及び滞在化促進

(1) 観光客誘致事業・滞在化促進事業

北九州空港海外路線の運航に併せた本市の観光素材の情報発信・旅行社へのセールスを実施するとともに、福岡空港及び関西空港からのインバウンド観光客に対しても本市への誘客を促進する。また、メディア関係者や旅行社、ブロガー（インフルエンサー）向けのFAMツアー等を活用した市内最新情報の全世界発信を行ない、インバウンド観光客向け着地型旅行商品の造成、多言語情報対応のインバウンド専用サイトの構築、本市への誘客や夜型観光資源などを活用した国内向け観光キャンペーンなどを進める。

(2) 団体旅行（教育旅行等）誘致事業

市及び民間事業者と連携し、教育旅行等団体旅行受け入れに対応したメニューづくりを各施設に促すことで、本市への観光客誘致促進を図る。

(3) 助成事業

本市への立寄り・宿泊を伴う旅行商品への助成とともに、伝統的な祭事への補助を行い、集客力のある祭りの開催継続による観光客の誘客を図る。

観光都市北九州の広報宣伝と観光情報の収集・調査

北九州観光情報サイト「ぐるリッチ！北Q州」を活用し本市の魅力を発信するとともにF1層やZ世代に対して、SNSを中心とした観光デジタルプロモーションを行う。また、北九州への観光に興味を持つターゲット層へのリーチ精度向上や実訪問者数の最大化を目指し、検索広告等について研究を進め、広告運用の最適化を図る。

観光に関する人材の育成及び啓発

新たな旅行需要に合わせた先進的な取り組みを行っている事業者のおもてなし活動などをSNSで紹介する。また、観光ボランティア制度（108名【令和5年4月現在】）を運営するとともに、新たな観光ボランティアの担い手の養成や若年層の観光知識習得を目的に北九州観光市民大学を開講し、市民の観光マインドを醸成する。

観光に関する施設の管理・運営

(1) 観光案内所等の運営

「北九州市観光案内所運営協議会」を通じ、市内4カ所において観光案内所を運営し、国内外からの観光客に対しニーズに合わせた観光情報を提供する。また、インバウンド需要の回復を見据え、訪日外国人が求める観光情報の準備やSNSによる情報発信等を行う。

(2) 産業観光と夜型観光の推進

北九州市、北九州商工会議所と当協会が組織した「北九州産業観光センター」を通じ、世界遺産や工場夜景を核とした「ものづくり観光」のブランド化に取り組み、産業観光と夜型観光を推進する。

(3) 土産品・特産品売店や小倉駅イベント広場等の運営

「北九州おみやげ館」「TOTOMミュージアム」での土産品・特産品売店の運営や、小倉駅イベント広場での市・JR主催事業の実施、JAMビジョンの運用等により、まちのにぎわいを創出する。

特産品の紹介・宣伝

市内外で開催されるイベントや観光物産展へ参加し、北九州市の特産品・土産品を実際に手に取り、購入できる機会を数多く提供する。

北九州市及びその近隣地域における旅行業

北九州市及びその近隣地域を訪れる観光客や、当協会が誘致した会議・大会・イベント等の参加者に対し、さらなる滞在時間の延長や、地元経済の消費拡大を図るため、着地型パッケージツアーを中心とした募集型企画旅行商品の企画・販売を行う。

令和6年度は国内観光客だけでなく、円安等の影響で増加している訪日外国人個人観光客を主要なターゲットとし、北九州市及び近隣地域の観光資源（自然・文化・食・観光施設・産業観光・工場夜景・夜型観光等）を盛り込んだ体験プログラムを中心にした商品造成を行う。

V 令和6年度予算

収支予算書(総括表)

自 令和6年4月1日

至 令和7年3月31日(単位:円)

科目	公益目的事業会計	収益事業会計	法人会計	内部取引控除	合計
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益	439,000	409,000	3,932,000	0	4,780,000
展示場設備受贈益	17,662,000	5,578,000	0	0	23,240,000
特定資産運用益	2,223,000	109,000	0	0	2,332,000
受取会費	9,345,000	0	0	0	9,345,000
事業収益	357,443,000	557,996,000	0	0	915,439,000
受取補助金等	300,739,000	0	338,000	0	301,077,000
受取負担金	25,526,000	50,555,000	0	0	76,081,000
協賛金	500,000	0	0	0	500,000
雑収益	4,911,000	8,362,000	0	0	13,273,000
経常収益計	718,788,000	623,009,000	4,270,000	0	1,346,067,000
(2) 経常費用					
事業費	805,164,000	472,489,000	0	0	1,277,653,000
管理費	0	0	15,631,000	0	15,631,000
経常費用計	805,164,000	472,489,000	15,631,000	0	1,293,284,000
評価損益等調整前当期経常増減額	▲ 86,376,000	150,520,000	▲ 11,361,000	0	52,783,000
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0
評価損益等計	0	0	0	0	0
当期経常増減額	▲ 86,376,000	150,520,000	▲ 11,361,000	0	52,783,000
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用					
経常外費用計	0	0	0	0	0
当期経常外費用増減額	0	0	0	0	0
他会計振替額	72,370,000	▲ 78,151,000	5,781,000		0
法人税、住民税及び事業税	0	25,327,000	0	0	25,327,000
当期一般正味財産増減額	▲ 14,006,000	47,042,000	▲ 5,580,000	0	27,456,000
一般正味財産期首残高	1,836,973,558	525,552,982	▲ 55,566,623	0	2,306,959,917
一般正味財産期末残高	1,822,967,558	572,594,982	▲ 61,146,623	0	2,334,415,917
II 指定正味財産増減の部					
基本財産運用益	0	0	3,932,000	0	3,932,000
一般正味財産への振替額	17,662,000	5,578,000	3,932,000	0	27,172,000
当期指定正味財産増減額	▲ 17,662,000	▲ 5,578,000	0	0	▲ 23,240,000
指定正味財産期首残高	153,528,359	48,480,485	761,421,282	0	963,430,126
指定正味財産調整額	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	135,866,359	42,902,485	761,421,282	0	940,190,126
III 正味財産期末残高	1,958,833,917	615,497,467	700,274,659	0	3,274,606,043

VI 役員名簿等

1 役員名簿

令和6年7月1日現在

役職名	氏名	備考
理事長	津田純嗣	北九州商工会議所 会頭
専務理事	近藤 晃	(公財)北九州観光コンベンション協会
理事	井上保之	北九州市都市ブランド創造局長
〃	田中亮一郎	北九州市にぎわいづくり懇話会 副座長
〃	安部高子	北九州商工会議所女性会 会長
〃	今崎正明	(一財)九州オープンイノベーションセンター 専務理事
〃	廣瀬 香	(一社)九州経済連合会 総務国際部長
〃	関 宣 昭	NPO法人里山を考える会 代表理事
〃	棟安正人	(株)リーガロイヤルホテル小倉 代表取締役社長(兼)総支配人
監事	吉村知泰	北九州市会計室長
〃	羽田野隆士	北九州商工会議所 専務理事

2 市との特命随意契約の状況（令和5年度実績）

市からの特命随意契約による委託の状況			左のうち外郭団体からの再委託の状況				
委託業務名	委託金額 (千円)	特命理由	再委託の 業務内容	委託金額 (千円)	契約相手	契約方法	特命随意契約の場合その理由
TGC 北九州 2023 地元特 産品 PR 業務	168	当協会は公益事業目的として、北九州市の特産品を PR する機会を創出し、北九州市の魅力アップを図る取組を行っている。当委託業務を一体的に実施することで、円滑な業務の実施・特産品業者との効率的な連携を可能にし、短期間に必要個数を通常より低価格で提供できる。	再委託なし				
「門司港ガイドおまかせコース」 運営業務	81,070	「門司港ガイドおまかせコース」は、門司港を訪れる市内外の観光客に対し、参加者のニーズに合わせてご案内し、門司港地区の魅力発信を図るものである。業務委託にあたっては、門司港全体の観光情報に精通したガイドを安定的な手配が可能であることが条件となり、北九州観光コンベンション協会で行わなければならないため。	再委託なし				
情報発信・ 取材協力事業	242	設備管理者である北九州観光コンベンション協会以外では当該業務を履行できないため（北九州市が取り上げられたNHK「プラタモリ」を PR するため、NHK放送の受信設備のある JAM 広場上部の JAM ビジョン(管理者:北九州観光コンベンション協会)にてパブリックビューイングを実施)。	再委託なし				
小倉駅 JAM ビジョン放映業務	440	当該法人が運営管理するビジョンを利用した広報を行ったもののため。	再委託なし				
合計	81,920		合計				